

松本千代榮先生追悼

西 形 節 子

今から約半世紀前のこと、お茶の水女子大学の体育館の脇をダラダラと降りると大きな裏門があり、くぐりを抜けるとそこはもう講談社のある音羽、目の前に大きな建物が現れました。確か、日商岩井の豪華マンションで、その最上階に木の香も新しい大きな表札に「郡司正勝・松本千代榮」同じ等分の大きさで立派に書かれた表札がかけてありました。

女権が拡大した現代では当たり前目にしますが、当時では旧姓を堂々と名乗り等分の大きさでかけることは非常に珍しいことと思いました。それがとても印象に残っています。

そのマンションは丁度大学のすぐお隣でリビングからはお茶の水女子大学のキャンパスが一望出来ました。ご新居は玄関も広く、廊下も長く、広くてたくさんのお部屋があり、今で言う億ションの走りではないでしょうか。

ちょうど私が新関良三先生のお陰で共立女子大の舞踊論の一コマを頂き、非常勤講師で大学に勤める事になりました。

長いこと学業を放り出していたのを慌てて又、四十の手習い、帰り新参で郡司先生の門を叩きました。そのお陰で松本千代榮先生とお目にかかることが出来たのです。

松本先生は「郡司が・・・」と仰ってお茶の水女子大の舞踊教育学科を作り、教育舞踊界のトップとは思えないほどの初々しさが印象的でしたが、その松本先生のお陰で私はお茶の水女子大に非常勤のお仕事を頂くことになりました。それがお茶の水女子大で科目として扱われた日本舞踊の走りだったと思われます。

舞踊界の二大巨星の個性のご結婚があったからこそ今日の舞踊学界の基礎が出来上がった事と今も私は信じております。それから半世紀という時が流れ今日の舞踊学界の盛況につながっていることは大変嬉しいことと思っております。

松本千代榮先生の遥かな昔のお若い当時のことを思い出してひとことご追悼のお言葉とさせて頂きました。長いお付き合い、最後には私自身も車椅子になったためお目にかかる折もなくお別れし

てしまったことが申し訳なかったことと悔やんでおります。どうぞお許しくださいます。

ご冥福をお祈りいたします